

# 明神さま

宇都宮二荒山神社

奉祝 天皇陛下御即位三十年



日本遺産認定



JAPAN HERITAGE

日本遺産

「地下迷宮の

秘密を探る旅

大谷石文化が

息づくまち

宇都宮」

構成文化財

二荒山神社の石垣



# 特集

## 天皇と御代替

國學院大學 准教授  
太平山神社 禰 宣

小林 宣彦

● 来年、御代替がおこなわれることは、

ご存知の方も多いと思います。「御代替」

は「おだいがわり」または「みよがわり」と読み、「天皇の御代が替わること」を意味します。御代替においては、さまざまな儀式・行事がおこなわれますが、それらを総称して「御大礼」と言います。御大礼で中心となるのは、「踐祚」「改元」「即位礼」「大嘗祭」「大饗」「親謁」などです。

● 即位礼では、新しく即位した天皇が、即位を宣命します。三種神器を受け継いで皇位につかれた新帝が、その即位を公式に国内・諸外国に宣言なされる行事です。御即位は五月ですが、即位式は十月におこなわれます。国民の代表や海外の賓客を招き、新帝は「黄櫨染」とよばれる装束を着け、「高御座」に登られます。

● 大嘗祭は、天皇一代に一度おこなわれる、天皇が親ら執りおこなう祭祀です。新帝は、即位の後、皇祖神である天照大神をはじめ天神地祇をお祀りされます。大嘗祭は十一月に

おこなわれます。

○ 大饗とは、大嘗祭の直会です。大嘗祭では天皇が親ら神饌を神様に供され、共に召し上がるときに召し上がり、その神饌を撤下して「おさがり」として召し上がり、国民の代表にも分けられます。大嘗祭の後、「御神楽」が舞われるなど、新帝を寿ぐ行事です。

● 親謁とは、即位の儀式を終えられた天皇が、伊勢の神宮や、神武天皇をはじめとする御陵（＝天皇の陵墓）に親ら参拝される行事です。伊勢の神宮に祀られているのは天照大神ですから、祖先にあたる神や歴代の天皇方に即位の奉告をなされる行事と言えます。

● 今回の御代替では、今上陛下が新帝に譲位（＝皇位を譲ること）なさいますが、これは実に一五〇年ぶりのことです。日本国憲法には、「皇位は、世襲のものであつて、国会の議決した皇室典範の定めるところにより、これを継承する。」とあります。皇室に関する法律を「皇室典範」と言います。皇室典範には、「天皇が崩じたときは、皇嗣が、直ちに即位する。」「皇位の継承があつたときは、即位の礼を行う。」とあります。本来は、天皇崩御の後に新帝が即位することが基本ですが、今回は、「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」という特例法に基づいて、今上陛下は退位され、新帝が即位なされることになりました。今上陛下は

明年四月三十日に御譲位なされます。

● ニュースなどでは「生前退位」の言葉をよく耳にします。皇位を皇嗣に譲りたいという陛下のご希望は、天皇の政治的発言・行為と見なされてしまふ可能性があるとして、「譲る」ではなく「辞める」を意味する「退位」が用いられておりますが、天皇が皇位を退いて新帝が即位することを、歴史的には「譲位」と呼びます。

● 譲位そのものは、日本の歴史上珍しいことではなく、六十四人も天皇が譲位を経て即位しています。最初の譲位は、今から一三七三年前のことです。皇極天皇が弟の軽皇子（＝孝徳天皇）に譲位したので初例とされます。譲位や退位を知っている我々にとっては、珍しいことには思えませんが、当時は我が国では前例のない出来事であり、しかも東アジアにおいても僅かな事例しかない特殊なものでした。皇極天皇は女性の天皇で、皇子には中大兄皇子（＝天智天皇）や大海人皇子（＝天武天皇）がいます。譲位の後、中大兄皇子が皇太子となりました。即位した孝徳天皇は、前天皇に「皇祖母尊」の号を献じたとされています。

○ 今上陛下が皇位を退かれた後は「上皇」となりますが、これは「太上天皇」のことです。太上天皇は「譲位した帝に称する所」と古代の法律で決められています。持統天皇が文武天皇に譲位した後には太上天皇となったのが、太上天皇の初例



▲即位礼正殿の儀（宮内庁提供）

です。持統天皇は天武天皇の皇后であり、天武天皇崩御の後に即位しました。古代律令国家誕生という重要な時期の天皇です。文武天皇が即位すると、「大宝」という元号がつけられました。「大宝律令」という古代の法律の名称をご存じの方も多いと思います。

●我が国の最初の元号は「大化」といい、孝徳天皇が即位するとつけられました。大化から始まる元号は、現在まで、二四七を数えます。日本史の授業などで「大化の改新」という言葉をならった方も多いと思いますが、皇祖母尊・孝徳天皇・中大兄皇子によっておこなわれた政治改革のことで、現在の元号は、天皇一代に一つの元号ですが、これは明治時代からの制度です。もともと

は、御代替以外でも、祥瑞（吉事の予兆とされるもの）・吉事・凶事などの際に元号を変えていました。これを「改元」と言います。一二五代の天皇に対して元号が二四七あるのはこのためです。孝徳天皇の御世でも、「白雉」へと改元されています。元号は東アジアに共通するものですが、中国大陸や朝鮮半島ではもはや用いられておらず、日本に残る伝統的文化です。元号を決定する際には、学者などが話し合っただけで決めます。中国の古い書物から引用されることが多く、現在の「平成」も「史記」や「書経」という書物にある「内平外成」「地平天成」という言葉からの引用です。

●孝徳天皇崩御の後、皇極天皇は再び皇位に就きます。これが斉明天皇であり、このように二回皇

位に就くことを重祚と言います。同じく重祚した天皇に、奈良時代中期の孝謙天皇と称徳天皇がいます。東大寺の大仏や国分寺の建立で有名な聖武天皇が孝謙天皇に譲位すると、その九年後の天平宝字二年（七五八）に孝謙天皇は淳仁天皇に譲位しました。淳仁天皇の父は舎人親王と言います。天武天皇の皇子で、我が国最初の公的歴史書である『日本書紀』編纂の責任者となった方です。淳仁天皇は前天皇に再び譲位します。これが称徳天皇です。孝謙天皇も称徳天皇も同一の女性であり、重祚がおこなわれました。政治が混乱していたとされる奈良時代では、権威・権力の象徴であった天皇が譲位することで、更なる混乱を避けたのかもしれない。

●譲位は、平安時代が最も多く、二十回以上もおこなわれています。奈良時代は、幼帝の即位を避けるために女帝が誕生したこともありましたが、平安時代の摂関期は幼帝を避ける必要がなかったため、女帝が少なく、幼帝への譲位が多かったと考えられています。平安時代の末期を「院政期」と呼びますが、これは上皇が実権を握った時代です。この頃までは、天皇や院（上皇）が、自分の直系子孫の皇位継承を望んで譲位しました。一方、平氏の台頭や鎌倉幕府誕生などの混乱期には、近臣（天皇の側近）の介入が顕著となり、鎌倉時代には、譲位は幕府に依存しておこなわれるようになりました。室町時代に応仁の乱が起きると、朝廷の経済は窮乏してしまいます。応仁の乱からおよそ一二〇年後、天正十四年（一五八六）

に正親町天皇が皇孫の和仁親王（後陽成天皇）に譲位しましたが、これは豊臣秀吉の援助によって実現したものでした。江戸時代は、譲位に際して幕府に伺いを立てることが慣例となっており、後水尾天皇以外の譲位は、すべて幕府の承認のもとでおこなわれました。時に、突然に天皇の崩御が起こったときは、後継の内諾を得る間、関白以下の公家たちは、喪を秘して、天皇が存命であるかのように過ごしたこともあったのです。明治時代以降、譲位はおこなわれず、文化十四年（一八一七）の「光格天皇→仁孝天皇」が譲位の最後の例になりました。

●明治時代になると、大日本帝国憲法が公布され、「皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ継承ス」と定められ、皇位は男系男子が継承すべきものとされました。大日本帝国憲法にある「皇室典範」は明治の皇室典範で、現在のものは戦後に制定されました。明治維新の立役者である岩倉具視は、議会から天皇・皇室を守るため、皇室制度の整備に力を注ぎました。皇室の伝統的な制度・典礼を調査・研究する機関とし



▲「孝明天皇紀附図・即位図」宮内庁宮内公文書館蔵



て、「諸規取調所」「内規取調局」などを設置して、伝統的な皇室制度の護持につとめました。岩倉具視の作成した大綱領には「帝位継承は祖宗以来の遺範であり、別に皇室の憲則に之れを載せ、帝国の憲法には記載を要せざる事」とあります。岩倉によって、「日本古来の伝統に基づく皇位継承法を憲法とは別の法典に定める」という方針が立てられたのです。そして明治二十二年（一八八九）、大日本帝国憲法発布の同日、皇室典範が制定されました。明治の皇室典範は、大日本帝国憲法からは独立した根本法規の一つであり、議会の干渉を受けない皇室自立主義に基づいていました。そこには、「大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ継承ス」「天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク」「即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ」「踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ」などの条文が記載され、「男系男子の皇位継承」「崩御の後に皇嗣が即位し、神器を継承する」「即位礼



▲「公事録・讓位劍璽渡御之図」宮内庁書陵部図書寮文庫蔵

と大嘗祭は京都で行う」「元号は天皇一代に一つ」などの原則が定められたのでした。「祖宗の神器」とは、三種の神器のことを指します。

○現在、三種の神器の継承は、宮殿において、「劍璽等承継の儀」でおこなわれます。劍璽等承継の儀とは、皇居の吹上御所内の「劍璽の間」に安置されている八坂瓊曲玉と草薙劍の形代（お写し・ご分身）と天皇の印章である御璽と国の印章である国璽が新帝に受け継がれる儀式です。もともとは「劍璽渡御の儀」と言いましたが、「皇室経済法」に「皇位とともに伝わるべき由緒ある物は、皇嗣がこれをうける」とあるために、「劍璽」「等」承継の儀」と改められました。「皇位とともに伝わるべき由緒ある物」とは、三種の神器（鏡・劍・璽）、壺切の御劍、宮中三殿、宮中祭祀用の太刀・屏風、京都東山御文庫の御物、装身具類、天皇御璽、大日本国璽などを指します。

●讓位の儀は、今上陛下が宮中三殿に退位奉告の祭典をなさった後におこなわれます。その後には劍璽等承継の儀がおこなわれ、新帝が宮中三殿に即位奉告の祭典をなさいます。明年の讓位の儀がどのようにおこなわれるかはまだ定まっていませんが、平安時代の儀式書によれば、讓位はおよそ次のようにおこなわれます。

①讓位当日、天皇は院の御在所（または紫宸殿）において南向きに御し、皇嗣は東宮坊を出て、殿上の座に就く。

②宣命大夫が庭中の列に就き、宣制する。（Ⅱ

ここで皇嗣から天皇になる）

③新帝は、帰列する。内侍は節劍（または神璽・宝劍）を持って追従し、少納言は鈴印鑰等を持って新帝の御所に進む。（Ⅱ劍璽渡御の儀）

●劍璽の間に安置されている八坂瓊曲玉と草薙劍は、神話に登場します。八坂瓊曲玉は、天照大神が天石窟に閉じこもった際に、大神を石窟から招き出すために、真神に飾り付けられました。草薙劍は、高天原を追放されたスサノオノミコトが出雲で八岐大蛇を退治した際、八岐大蛇の尾から発見し、天神に献上されました（Ⅱ一説では天叢雲劍）。その後、日本武尊が東征におもむく際、伊勢の地で倭姫命から授けられた草薙劍は、日本武尊が亡くなると、熱田神宮に納められました。伝承では、天智天皇の御代に外賊によって熱田神宮から盗まれ、危うく国境を越えるところで取り戻したと伝わります。そして天武天皇の御代に天皇が病にかかると、原因は草薙劍の祟りであるとの神託があったので、ただちに草薙劍は熱田社に還座されました。劍璽の間に安置されているのが草薙劍の形代なのは、以上の経緯によるのです。

今回は、讓位を中心に述べましたが、今回は即位式や大嘗祭について説明したいと思います。御大札については宮内庁のHPでも最新の情報が発信されておりますので、ご参照ください。



# 今上陛下、昭和天皇、大正天皇の踐祚の式、即位礼及び大嘗祭の式

注 各儀式の名称中、昭和天皇、大正天皇の踐祚の式、即位礼及び大嘗祭の式に関する「シ」マーク表記の儀式は登極令附式に定めのあるもの及び重要な事項。今上陛下の踐祚の式、即位礼及び大嘗祭の式については登極令附式に準じたもの及び重要なものを「シ」マーク表記としている。儀式名の表記は原則として実録・大札記録・大札要録等に拠った。

大正天皇即位礼及大嘗祭の式等	
年月日	事項
1月14日	大札準備委員長・委員を任命
7月30日	明治天皇一周年祭
11月21日	大札使官制を裁可・公布
1月17日	賢所二期日奉告ノ儀
同日	皇靈殿神殿二期日奉告ノ儀
同日	神宮神武天皇山陵並二前帝四代ノ天皇山陵二勅使發遣ノ儀
1月19日	神宮三奉幣ノ儀
同日	神武天皇山陵並二前帝四代ノ山陵二奉幣ノ儀
2月5日	齋田点定ノ儀
4月11日	皇太后崩御
同日	大喪により大札使官制を廃止
同日	詔閣中のため勅定ノ期日ニ於テハ之ヲ行ハセザレザル旨を發表
4月15日	勅定ノ期日ニ於テハ之ヲ行ハセザレザル旨を賢所・皇靈殿・神殿に奉告
4月17日	勅定ノ期日ニ於テハ之ヲ行ハセザレザル旨を神宮、神武天皇・明治天皇両山陵、孝明天皇・仁孝天皇・光格天皇各山陵に奉告
同日	齋田は其ノ儘存置セラル旨御沙汰
大正天皇即位礼及大嘗祭の式等	
年月日	事項
9月21日	大札準備委員会規則を定める
4月11日	昭憲皇太后一周年祭
4月12日	大札使官制を裁可・公布
4月19日	即位ノ礼・大嘗祭の期日告示
同日	賢所二期日奉告ノ儀
同日	皇靈殿神殿二期日奉告ノ儀
同日	神宮神武天皇山陵並二前帝四代ノ山陵二勅使發遣ノ儀
4月21日	神宮三奉幣ノ儀
同日	神武天皇山陵並二前帝四代ノ山陵二奉幣ノ儀
	(齋田点定 3年4月17日条参照)
8月11日	大嘗宮地鎮祭
8月13日	名古屋離宮賢所仮殿地鎮祭
8月15日	齋田齋場地鎮祭(悠紀主基)
9月17日	主基齋田拔穂前一日大祓ノ式
9月18日	主基齋田拔穂ノ儀
9月19日	悠紀齋田拔穂前一日大祓ノ式
9月20日	悠紀齋田拔穂ノ儀
10月10日	皇后御着帯ノ儀(京都へ行啓されず)
10月16日	悠紀地方新穀供納式
10月17日	主基地方新穀供納式
11月6日	京都三行幸ノ儀(7日御著)
11月7日	賢所春興殿二渡御ノ儀
11月10日	即位礼当日賢所大前ノ儀
同日	即位礼当日皇靈殿神殿二奉告ノ儀
同日	即位礼当日紫宸殿ノ儀
11月11日	即位礼後一日賢所御神楽ノ儀
11月12日	神宮皇靈殿神殿並二官幣社二勅使發遣ノ儀
同日	大嘗祭前二日御禊ノ儀
同日	大嘗祭前二日大祓ノ儀
11月13日	大嘗祭前一日大嘗宮鎮祭ノ儀
同日	大嘗祭前一日鎮魂ノ儀
11月14日	大嘗祭当日神宮三奉幣ノ儀
同日	大嘗祭当日皇靈殿神殿二奉幣ノ儀
同日	大嘗祭当日賢所大御饌供進ノ儀
同日	大嘗宮ノ儀
同日	悠紀殿供饌ノ儀
同日	主基殿供饌ノ儀
11月15日	大嘗祭後一日大嘗宮鎮祭ノ儀
同日	即位礼及大嘗祭後大嘗第一日ノ儀
11月17日	即位礼及大嘗祭後大嘗第三日ノ儀
同日	即位礼及大嘗祭後大嘗夜宴ノ儀
同日	即位礼及大嘗祭後神宮二親謁ノ儀
11月20日	賢所大御饌ノ儀
同日	皇大神宮
11月21日	即位礼及大嘗祭後神武天皇山陵並二前帝四代山陵二親謁ノ儀
同日	神武天皇山陵二親謁ノ儀
11月24日	明治天皇山陵二親謁ノ儀
11月25日	孝明天皇山陵二親謁ノ儀
同日	仁孝天皇山陵二親謁ノ儀
同日	光格天皇山陵二親謁ノ儀
11月27日	東京三還幸ノ儀(27日御著)
11月28日	賢所温明殿二還御ノ儀
11月29日	東京還幸後賢所御神楽ノ儀
同日	大正天皇山陵二親謁ノ儀
11月30日	還幸後皇靈殿神殿二親謁ノ儀
12月2日	第四皇男子(崇仁親王)誕生
12月7日	宮中晩餐並二夜宴ノ儀
12月8日	宮中晩餐並二夜宴ノ儀
12月14日	大嘗祭後大嘗宮地鎮祭ノ儀

昭和天皇即位礼及大嘗祭の式等	
年月日	事項
11月15日	先帝崩御
同日	賢所ノ儀
同日	皇靈殿神殿二奉告ノ儀
同日	劍璽渡御ノ儀
同日	緊急閣議
同日	枢密院で元号建定の審査委員会
同日	枢密院本会議
同日	閣議
同日	元号建定の件上奏
同日	詔書に御署名
同日	改元の詔書(即日公布・即日改元)
同日	賢所ノ儀(第二日)
同日	賢所ノ儀(第三日)
同日	踐祚後朝見ノ儀
同日	昭和三十二年
3月3日	十一月三日を明治節と定められる
6月20日	大札準備委員会設置
10月15日	皇室祭祀令改正
12月26日	大正天皇一周年祭
12月30日	登極令改正
12月30日	大札使官制公布
1月12日	諸儀期日の件を御裁可
1月17日	賢所二期日奉告ノ儀
同日	皇靈殿神殿二期日奉告ノ儀
同日	神宮神武天皇山陵並二前帝四代ノ天皇山陵二勅使發遣ノ儀
1月19日	神宮三奉幣ノ儀
同日	神武天皇山陵並二前帝四代ノ山陵二奉幣ノ儀
2月5日	齋田点定ノ儀
6月24日	名古屋離宮賢所仮殿地鎮祭ノ儀
8月5日	大嘗宮地鎮祭ノ儀
8月19日	齋田齋場地鎮祭ノ儀(悠紀主基)
9月15日	齋田拔穂前一日大祓ノ儀(悠紀)
9月16日	悠紀齋田拔穂ノ儀
9月20日	齋田拔穂前一日大祓ノ儀(主基)
9月21日	主基齋田拔穂ノ儀
10月16日	悠紀地方新穀供納式
10月17日	主基地方新穀供納式
11月6日	京都三行幸ノ儀(7日御著)
11月7日	賢所春興殿二渡御ノ儀
11月10日	即位礼当日皇靈殿神殿二奉告ノ儀
同日	即位礼当日賢所大前ノ儀
同日	即位礼当日紫宸殿ノ儀
11月11日	即位礼後一日賢所御神楽ノ儀
11月12日	神宮皇靈殿神殿並二官幣社二勅使發遣ノ儀
同日	大嘗祭前二日御禊ノ儀
同日	大嘗祭前二日大祓ノ儀
11月13日	大嘗祭前一日大嘗宮鎮祭ノ儀
同日	大嘗祭前一日鎮魂ノ儀
11月14日	大嘗祭当日神宮三奉幣ノ儀
同日	大嘗祭当日皇靈殿神殿二奉幣ノ儀
同日	大嘗祭当日賢所大御饌供進ノ儀
同日	大嘗宮ノ儀
同日	悠紀殿供饌ノ儀
同日	主基殿供饌ノ儀
11月15日	大嘗祭後一日大嘗宮鎮祭ノ儀
同日	即位礼及大嘗祭後大嘗第一日ノ儀
11月17日	即位礼及大嘗祭後大嘗第三日ノ儀
同日	即位礼及大嘗祭後大嘗夜宴ノ儀
同日	即位礼及大嘗祭後神宮二親謁ノ儀
11月20日	賢所大御饌ノ儀
同日	皇大神宮
11月21日	即位礼及大嘗祭後神武天皇山陵並二前帝四代山陵二親謁ノ儀
同日	神武天皇山陵二親謁ノ儀
11月23日	明治天皇山陵二親謁ノ儀
11月24日	孝明天皇山陵二親謁ノ儀
11月25日	仁孝天皇山陵二親謁ノ儀
同日	光格天皇山陵二親謁ノ儀
11月26日	東京三還幸ノ儀(27日御著)
11月27日	賢所温明殿二還御ノ儀
11月28日	東京還幸後賢所御神楽ノ儀
11月29日	大正天皇山陵二親謁ノ儀
11月30日	還幸後皇靈殿神殿二親謁ノ儀
12月7日	宮中饗宴
12月8日	宮中饗宴
12月10日	宮中饗宴
12月11日	宮中饗宴
7月16日	大嘗祭後大嘗宮地鎮祭ノ儀

今上陛下即位礼及大嘗祭の式等	
年月日	事項
6月29日	即位の礼検討委員会設置
同日	大札検討委員会設置
9月26日	即位の礼準備委員会設置
同日	大札準備委員会設置
1月7日	昭和天皇一周年祭の儀
1月8日	即位の礼委員会設置
同日	大札委員会設置
1月23日	即位礼・大嘗祭の儀等期日告示
同日	賢所に期日奉告の儀
同日	皇靈殿神殿に期日奉告の儀
同日	神宮神武天皇山陵及び前四代の天皇山陵に勅使發遣の儀
1月25日	神宮に奉幣の儀
同日	神武天皇山陵及び前四代の天皇山陵に奉幣の儀
2月8日	齋田点定の儀
8月2日	大嘗宮地鎮祭
9月27日	悠紀齋田拔穂の儀の期日公示
同日	齋田拔穂前一日大祓(悠紀)
9月28日	悠紀齋田拔穂の儀
10月9日	主基齋田拔穂の儀の期日公示
同日	齋田拔穂前一日大祓(主基)
10月10日	主基齋田拔穂の儀
10月25日	悠紀主基両地方新穀供納
11月12日	即位礼当日賢所大前の儀
同日	即位礼当日皇靈殿神殿に奉告の儀
同日	即位礼正殿の儀
同日	祝賀御列の儀
12-15日	饗宴の儀
11月13日	園遊会
11月16日	神宮に勅使發遣の儀
同日	勅祭社16社に幣帛料御下賜
11月18日	即位礼一般参賀
11月20日	大嘗祭前二日御禊
同日	大嘗祭前二日大祓
11月21日	大嘗祭前二日大嘗宮鎮祭
同日	大嘗祭前一日鎮魂の儀
11月22日	大嘗祭当日神宮に奉幣の儀
同日	大嘗祭当日賢所大御饌供進の儀
同日	大嘗祭当日皇靈殿神殿に奉告の儀
同日	大嘗宮の儀
同日	悠紀殿供饌の儀
同日	主基殿供饌の儀
11月23日	大嘗祭後一日大嘗宮鎮祭
同日	大嘗の儀
同日	大嘗の儀
11月25日	大嘗の儀
同日	即位礼及び大嘗祭後神宮に親謁の儀
11月27日	賢所大御饌ノ儀
同日	皇大神宮に親謁の儀
11月28日	即位礼及び大嘗祭後神武天皇山陵及び前四代の天皇山陵に親謁の儀
同日	神武天皇山陵に親謁の儀
同日	孝明天皇山陵に親謁の儀
12月3日	明治天皇山陵に親謁の儀
同日	茶会
12月5日	昭和天皇山陵に親謁の儀
同日	大正天皇山陵に親謁の儀
12月6日	即位礼及び大嘗祭後賢所に親謁の儀
同日	即位礼及び大嘗祭後皇靈殿神殿に親謁の儀
同日	即位礼及び大嘗祭後賢所御神楽の儀
2月14日	大嘗祭後大嘗宮地鎮祭

今上陛下、昭和天皇、大正天皇の「御代替・御大典」にあわせて宇都宮で行われた奉祝行事と、その頃の宇都宮の世相をご紹介します。

# 平成

三基の神輿で奉祝連合渡御

今上陛下の御大典に際しては、大嘗祭当日に神輿保存会などの担手奉仕者約900名により、二荒山神社・バンバ通り商店街・埴田睦会の神輿が三基そろって、奉祝連合渡御を執り行いました。

## 【当時の宇都宮】

昭和59年にはジャズの渡辺貞夫さんが宇都宮市民栄誉賞第1号に選ばれました。市内のジャズスポットも充実してきます。昭和から平成にかけてのバブル景気で、市民生活はどんどん豊かになりました。



# 昭和

人々の胸には菊花の奉祝徽章

昭和天皇の即位礼当日の奉祝式。当時の新聞には「前夜より市内は奉祝気分にあふれ、山車を曳く太鼓の音は夜を徹し、行き交う自動車も国旗を交差させ、道行く人々の胸には菊花の奉祝徽章、裏通りまで奉祝旗と提灯の波である」との奉祝行事の様子が記されています。

## 【当時の宇都宮】

大正から昭和にかけて、宇都宮にラーメン店が誕生。チャルメラを鳴らしながらの屋台も登場しています。当時の流行語は「マルクスボーイ」「モボ・モガ」など。マスキングがマネキン・ガールを呼んで話題になりました。女性のショートヘアやパーマも流行。新しい時代の波が押し寄せました。



# 大正

空前絶後の賑わいの奉祝大祭

大正天皇の御大典に際して、菊花祭が奉祝大祭として執り行われ、「四十四ヶ町の山車屋台はとうとうと囃子を入れ」などと、賑わいは「空前絶後」であったといわれています。

また、記念行事として神門建設や石坂改築などが行われたとの記録があります。

## 【当時の宇都宮】

明治40年に陸軍第14師団が駐屯、宇都宮に「軍都」としての顔が生まれました。市内には新しい文化「映画館」が続々と誕生。寄席や芝居小屋(歌舞伎)などともに庶民の娯楽となりました。神社の鳥居の下で演歌師が演奏する姿が見られるようになったのも、この頃です。宇都宮で初めてレコードが販売されたのも大正時代の初めでした。

大正3年には飛行機が、大正6年には飛行船が、初めて宇都宮の空を飛び、大きな話題になりました。



大正六年十月二十五日撮影



# 宇都宮のおまつり今昔

## 「紀元祭」 建国記念のおまつり

二月十一日は日本の初代天皇の神武天皇が橿原の宮(奈良県)にご即位された日です。

昔は「紀元節」とされていましたが、現在は法律で「建国記念の日」として、国民の祝日に定められており「建国をしのび、国を愛する心を養う日」とであると規定されています。

全国の神社では、わが国の建国を祝い「紀元祭」を行っており、皇室の無窮の弥栄と、国家郷土の繁栄が祈願されます。

この日、二荒山神社では社殿で行うお祭りに、生田流の琴と尺八の演奏が奉納されます。

氏子総代と神職が格調高い調べにあわせ「君が代」と「紀元奉頌の歌・雲にそびゆる高千穂の〜」と心を込めて斉唱しています。



昭和33年（1958）2月11日より行われている坂本門下生による生田流箏曲奉納



巫女さんに聞いた!

## 二荒山神社のあれこれ?

二荒山神社で「大谷石」めぐり

『大谷石文化が息づくまち宇都宮』が文化庁の『日本遺産』に認定されました。

「大谷石」は宇都宮の北西部の大谷地域で産出される石材です。

約1500万年前に起こった海底火山の噴火によって生じた凝灰岩

で、江戸時代頃より本格的に採掘さ

れ、明治以降は建材として大量に使

用されるようになりました。

地元の宇都宮では、石塀や蔵など

さまざまに使用されています。

二荒山神社の境内で使われている

大谷石をめぐってみませんか?



い

大谷石の石垣（正面石段の左右）江戸時代に築かれた石垣で日本遺産構成文化財になっています。



に

謎の礎石（十社の後ろ側）明治以前の建物の礎石のようですが、なぜか1つだけ残されています。



ろ

女坂（西坂）の石垣 ①と同時代の物と思われる。苔むしていて時代を感じさせます。



ほ

大谷石の狛犬 末社の須賀神社の狛犬です。表情が大変特徴的？です。



は

大谷石の土台 神社社殿と御本殿の周りの瑞垣（板塀）の土台として使用されています。



へ

大谷石の灯ろう 社務所の前にあります。東日本大震災で倒壊したため補修しました。







## 開運えと絵馬

森の王について

人と長い関わりのある猪は、豊かな森で暮らしている王様だと思ふ。

森の王は勇猛であり、生命力に富み、無病息災の象徴である。

日本拓版画会 会長 坂本富男



## こま犬守

二荒山神社の宝物「鉄製狛犬」にちなむお守りです。

鎌倉時代に奉納されたもので、日本犬の形をしているめずらしい狛犬です。



## しあわせ餃子おみくじ

大人気! ご当地おみくじ!



## 破魔弓・はまゆみ

破魔弓は魔障を払い除くという神事用の弓矢をかたどったものです。

お正月より新春の縁起物として授与いたします。



ただいま、新年を迎える準備を始めております。どうぞご家族おそろいで初詣にお参りください。  
(巫女より)



### 平成31年 厄年表

男性		
前厄	本厄	後厄
24歳 (平成8年生)	25歳 (平成7年生)	26歳 (平成6年生)
41歳 (昭和54年生)	42歳 (昭和53年生)	43歳 (昭和52年生)
60歳 (昭和35年生)	61歳 (昭和34年生)	62歳 (昭和33年生)
女性		
前厄	本厄	後厄
18歳 (平成14年生)	19歳 (平成13年生)	20歳 (平成12年生)
32歳 (昭和63年生)	33歳 (昭和62年生)	34歳 (昭和61年生)
36歳 (昭和59年生)	37歳 (昭和58年生)	38歳 (昭和57年生)

祝い<sup>※2</sup>

安産祈願<sup>※1</sup>

結婚式

成人式

合格祈願

七五三詣

初宮参り

### 人生のまつり

七五三、成人式、結婚式といった人生の節目には、ご家族の安全やお子さまの健やかな成長を祈願し、みんなでお祝いをしましょう。

※散え年は、誕生日前の場合は2歳、誕生日を迎えている場合は、1歳を足して計算します。  
 ※なお、祈願をする年齢や時期は、地域によっても異なりますので、詳しくはお近くの神社にお尋ね下さい。

※1：妊娠5カ月目の戌の日に安産祈願  
 ※2：還暦61歳・古稀70歳・喜寿77歳・米寿88歳など



# 年の初めに…

## お伊勢さまと氏神さま・鎮守さまのお神札をおまつりしましょう

皇室の御祖先である、天照大御神をおまつりするのが、三重県伊勢市に鎮座する皇大神宮（内宮）です。

この皇大神宮のお神札が「神宮大麻」で「お伊勢さま」・「お祓いさま」とも呼ばれ広く親しまれております。

毎年地域の神職や総代さんを通してお配りする神宮大麻をご家庭でおまつりいただくことにより、日々の生活に大御神の広大無辺のご神徳を戴くことはもちろんのこと、延いては日本が平和で豊かであることにも繋がっていきます。

新年を迎えるにあたり、新しく神宮大麻と共に、地域をお守り下さる氏神さま・鎮守さまのお神札も一緒にまつりして、ご家庭の一年の無事と幸せを祈りましょう。神棚にはお米・お塩・お水をはじめ季節の初物等をお供えし、日々の暮らしに感謝のきもちを込めて

二拝（深くお辞儀を二回）

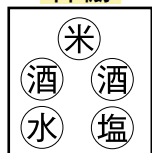
二拍手（手を二回たく）

一拝（深くお辞儀を一回）

の作法にてお参りしましょう。

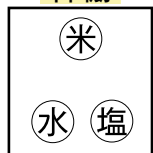
お米・お酒・塩・水を供える例

神棚



お米・塩・水を供える例

神棚



▲お供えの一例

一年間お守りいただいたお神札は感謝を込めて、氏神さま・鎮守さまに納めましょう。



▲重ねてまつる場合



▲横に並べてまつる場合

### お正月の参拝

大晦日、お正月の3日までは正面階段がのぼり一方通行となります。危険防止、安全確保のためご協力の程お願い致します。

### 駐車場のご利用について

ご参拝の際には、二荒山駐車場をご利用下さい。元旦より3日までは、終日無料開放致します。4日より、通常営業となります。

### おたりのやのご案内

12月15日に冬渡祭、1月15日に春渡祭を行います。両日とも夕刻より神輿がお出ましになり、下之宮で御旅所祭（田楽舞奉納）の後、市内を渡御します。おたりやは昔から火防のご利益がある祭とされ、お焚き上げの火にあたる

と無病息災で過ごせるとされています。

### お焚き上げについて

当社のお焚き上げは、毎年

12月15日 午前9時より午後7時

1月15日 午前9時より午後7時 の年2回です

この両日は、おたりや祭（冬渡祭・春渡祭）の祭礼日であり、両日朝、お焚き上げを行う旨、大神様に御報告申し上げる祭典を行い、「斎火」をもって、お焚き上げを行います。意義深い祭典の日にごぞお越し下さい。

尚、松の内（正月1〜7日）もご要望がありますので、お焚き上げのお納めを受付致しますが、防火・防災・防犯の関係上、おふだ・おまもり・絵馬・当社で受けられた縁起物（熊手や破魔矢）等とさせていただきます。

お焚き上げの際に、不要になった写真・人形・ぬいぐるみ・手紙・宗教団体からの案内状や書籍・カレンダー等を紛れ込ませたりすることはご遠慮下さい。

また、お正月の鏡餅の持ち込みもありますが、飾るだけでなく食べる事によって神力が授かります。鏡餅の形をしたプラスチックの容器は、お焚き上げは必要ありませんのでご注意ください。

（防火管理者より）





祭

礼

記

録



大祓式



田楽舞



花会祭



茅の輪潜り



太々神楽

天

王祭



須賀神輿渡御



下之宮東国御治定記念祭



親子神輿対面神事



例祭・秋山祭

菊水祭



鳳輦渡御



桃太郎・火焰太鼓山車



流鏝馬神事







## 青源味噌 株式会社

### 味噌の可能性を信じて挑戦を続ける老舗

かつて米穀商が軒を連ねていた旧石町界隈。「青源味噌」は、寛永2年(1625年)、初代青木屋源四郎氏によって米穀商として創業。後に味噌の醸造を始めます。長きにわたって一貫した思い、それが「貴穀」という言葉。「穀を貴び感謝のうちに業を営む、というのが、代々受け継いでいる思いです」と語る代表取締役会長の青木直樹氏。味噌造りの技術とともに、その思いを継承しています。

原材料は厳選した国内産のものにこだわります。25年ほど前からは、味噌の挑戦と称して、餃子や菓子など、味噌を使った商品を幅広く展開。味噌の可能性を追い求め「味噌文化の創造業」としての地位を確立しています。年に2回開催される「青源感謝の日」は、地域の人たちとのふれあいの機会として始めたもので、今年で10年目。毎回多くの人で賑わいます。また、代々二荒山神社との関わりも深く、天王祭や菊水祭などの祭を盛りたて、伝統と文化を守っています。



▲「これからも味噌文化の創造に邁進していきます」と青木直樹会長

住 所 栃木県宇都宮市三番町 1-9  
T E L 028-633-3333  
F A X 028-633-3338  
U R L <http://www.aogen.co.jp>

## 株式会社 タケカワ

### 百有余年の時を刻む老舗時計宝飾店

オリオン通りに看板を掲げて103年。「タケカワ」は大正4年(1915年)創業の老舗時計宝飾店です。本店のほかに、ウォッチメゾン店、G-TIME店、東武店、ブリリアント店、そして昨年オープンしたブライトリング店と、全6店舗を展開しています。代表取締役の竹川恵士氏は「老舗って言われるのは、あまり好きじゃないんです。日々新参者のつもりでやっています。でも長年やってこられたのは、なによりもまずお客様にわいがっていただけたから。そしてメーカー様、さらに従業員たちのおかげです」と柔らかな笑顔で語ります。

昨今、時計を買い求めるルートはさまざまです。しかし、タケカワの店舗を訪れば、信頼のおける店で時計を買うことの大切さと喜びを感じることでしょう。竹川社長は、長年二荒山神社の氏子総代も務めてきました。戦地から復員した時は真っ先に鳥居の前に立ち、報告したそうです。今も昔も、神社は人々の心のよりどころです。



▲90歳を過ぎてなお澆刺。笑顔も素敵な竹川恵士社長

住 所 栃木県宇都宮市江野町 7-3(本店)  
T E L 028-633-2031  
F A X 028-637-1307  
U R L <http://www.takekawa-t.com>

## 今小路自治会

「今小路は、江戸時代には下級武士やお城の御用商人が住んでいた町です。現在今小路自治会は36世帯です」と語る今小路自治会の会長坂井治夫さん。18年間の長期にわたって会長職を務めています。菊水祭には三役揃って渡御をお迎えするほか、宮まつりには1年おきに子ども神輿を出します。また、町内の清掃活動や、敬老の日の催しなどの活動も。

町内には稲荷神社と自治会館があり、催しにも使っています。坂井さん宅は、300余年続く畳店で、宇都宮藩主戸田家の御用を一手に引き受けていた老舗です。代々二荒山神社とも深い関わりがあります。かつて宇都宮城の今小路門があったこの界隈もマンションが建ち、様変わりしましたが、旧町名とともに往時の面影も残っています。



▲今小路自治会会長 坂井治夫さん

## 松が峰自治会

市役所の西側を東に上る坂があります。通称「たぬき坂」。その昔は狸が出るような場所だったとか。宇都宮城の本丸にも近く、武家屋敷であった場所ともいわれています。その後、屋敷町の風情を保っていましたが、近年は立派なマンションも目立ちます。自治会長の相澤義高さんは昨年会長に就任したばかり。「現在私どもの自治会は約70世帯ほどです。活動としては以前ほど活発な活動は少なくなりましたが、西地区と合同で、清掃活動や町内のパトロールなどは実施しています」と相澤さん。防犯や防災に関しての活動を重視しているそうです。

自治会の代表として二荒山神社には折々に参拝を欠かさない相澤さん。趣味は66歳から始めた登山です。神社の石段の御利益か健脚が自慢です。



▲松が峰自治会会長 相澤義高さん

# ふたあ

かわら版  
Vol.6

## 宇都宮短歌会

二荒山神社では毎月、短歌を学ぶ人たちが集い「宇都宮短歌会」を開いています。50年以上の歴史をもつ会で、10月12日に例会通算666回を数えました。宇都宮短歌会は神社が主催する文化活動で、流派をこえた短歌の研鑽をめざして結成され、伝統を受け継ぎ毎月の例会の他に、年1回様への敬神と感謝の心を込めた短歌を奉納する献詠祭を行っています。「百人一首のまち」の神社で短歌を学びませんか。



右の方々が多年の神社奉仕のご功績により表彰を受けられました。誠にありがとうございます。

## 神社参拝研修旅行



本年の研修は恒例の伊勢神宮に加え、埼玉県川口市の鎮守氷川神社・静岡県の富士山本宮浅間大社・富知六所浅間神社へ職員と総代がそれぞれ参拝致しました。日頃他社へお参りする際も陰ながらの努力や工夫を感じることが多いのですが、やはり研修ともなるとその比ではありません。

特色のある御祈祷や御守、細かな心配り等随所から各神社の職員の方々の想いが強く感じられました。当社も今後とも一之宮としての威厳を保ちつつ、一味違う心に残るような神社となるよう更に精進して参ります。

### 表紙について

第6号の表紙には、「日本遺産」に認定された「大谷石文化が息づくまち宇都宮」の構成文化財の一つ、「二荒山神社の石垣」(明治時代の絵図)を掲載しました。

「日本遺産 (JapanHeritage)」は地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するものです。

宇都宮の観光やブランドとしても注目を集める「大谷石文化」に期待が高まっています。

- 全国神社総代会設立六十周年記念表彰
- 斎藤高蔵殿 福田勝美殿
  - 野澤香峯殿 鈴木郁夫殿
  - 荒井一郎殿 (平成三十年九月二十六日)
- 栃木県神社庁規程表彰
- 福田治雄殿 (平成三十年十月二日)
- 宇河支部功労者表彰
- 篠崎昌平殿 関口和良殿
  - 堀井宏祐殿 根岸敬静殿 (平成三十年八月二十八日)

## しもつけきんのう とがまたい 一明治維新の時代に神職が組織した草莽隊



平成30年(2018)は明治維新150年の節目にあたります。前回の「明神さま」第5号では、「戊辰戦争の宇都宮城の戦い」について特集で紹介しました。江戸から明治への大きな時代変化の中で、武士以外にも各地で立ち上がった人たちの歴史がありました。

下野国(栃木県)の神職などによってつくられた「利鎌隊」もその一つでした。慶応4年(1868)に壬生藩雄琴大明神の神主黒川豊磨を中心組織された勤皇隊で、新政府の東征大総督となった有栖川宮熾仁親王より「帝道維一」の旗を賜り文武修練に励み、明治3年に解散となるまでの間に、地方治安などを目的に活動したと伝えられています。

栃木県立博物館(宇都宮市睦町2-2 Tel.028-634-311)の常設展示コーナー「戊辰戦争と栃木県の成立」では、明治維新の関係資料とともに隊旗(複製)や隊士が用いていた肩章が展示されています。



利鎌隊旗(黒川家蔵)

神社のホームページでは、お問い合わせの多い、ご祈祷やお焚き上げに関する情報をご確認いただけます。また年2回発行の社報のバックナンバーもご覧いただけますのでご利用下さい。



宇都宮二荒山神社

スマートフォンなどでもご覧いただけます。

検索

